

11月5日 ルカによる福音書19章11～27節

説教題：「普段できないお話」

今日の聖書個所でイエス様がたとえ話として語っているのは、私たちが普段しないお金の話、しかも「お金でお金を増やす」という投資に関係するような話でありました。ただ、ここで出てきている「銀行」という言葉は、どちらかという「両替商」の方が近い言葉のようです。手数料で儲けていた両替商たちは、時にローマのお金の1万円が神殿の銀貨で5千円にしかならないような、暴利をむさぼっていたようです。

だからこそ、そのような職業が「卑しい」という理解がイエス様の時代にはありました。今日の説教要旨の裏面、聖書個所の下にも書いてありますが、初期のキリスト教においては高利貸しが禁止されていました。それは、高額な手数料によって信仰を邪魔した両替商のことや、信仰という意味では、時間の経過によって利息を取って儲けることは、神様だけが支配できる「時間」というものに人間が値段を付ける不遜な行為だとみなされました。

ただ、今日の個所でイエス様が言っているのは高利貸しや両替商が卑しいということでも、逆にそのように稼ぎなさい、という事でもありません。イエス様はお金の専門家ではなく、御言葉の専門家、神様のことを知り尽くした方です。つまり、今日の個所でももちろん、イエス様は「神様の事」を人々に教えようとしているのです。

今日の個所が出てくる「1ムナ」という金貨は、別の福音書では「タラント」と書かれています。つまり今日の個所は、神様から私たちに与えられている賜物と神の国の関係を説明したものなのです。逆に言えば、神の国を受け継ぐことができない人にも1ムナが与えられています。彼らは裁きの時に不信仰の報いを受ける側の人でしょうが、そんな人々にも主人は1ムナを与えているのです。どんな人にもチャンスを与えている、しかしそれを受けてまじめに何かをするのではなく、怠惰に過ごした人からは神様はすべて取り上げると、そして勤勉に信仰を踏み行った人には恵みが与えられると、今日の個所では示されているのです。

私たちに与えられている1ムナという信仰は、10にも5にも増やすことができるほどに、大きな可能性を秘めたものです。それほど素晴らしいものを、私たちは神様から頂いています。皆様が神様から頂いた1ムナは、いったいどんな輝きを持ったものなのでしょうか。皆様の賜物は、神様から与えられた恵みや才能、力や心は、どのような輝きを持っているのでしょうか。どうかそれを眠らせておくのではなく、使って、使って、それによってさらに多くの恵みを受け取ることができるほどに使い切ったその時には、きっと「あなたにそれを与えてよかった」と喜ぶ神様に出会えるのではないのでしょうか。私たちが神様から与えられたものをこの世で活用する、その喜ばしい歩みを、これからも進めていきましょう。

今日の説教箇所：ルカによる福音書19章11～27節

- ・11:人々がこれらのことに聞き入っているとき、イエスは更に一つのたとえを話された。エルサレムに近づいておられ、それに、人々が神の国はすぐにも現れるものと思っていたからである。イエスは言われた。「ある立派な家柄の人が、王の位を受けて帰るために、遠い国へ旅立つことになった。そこで彼は、十人の僕を呼んで十ムナの金を渡し、『わたしが帰って来るまで、これで商売をなささい』と言った。しかし、国民は彼を憎んでいたのも、後から使者を送り、『我々はこの人を王にいただきたくない』と言わせた。さて、彼は王の位を受けて帰って来ると、金を渡しておいた僕を呼んで来させ、どれだけ利益を上げたかを知ろうとした。最初の者が進み出て、『御主人様、あなたの一ムナで十ムナもうけました』と言った。主人は言った。『良い僕だ。よくやった。お前はごく小さな事に忠実だったから、十の町の支配権を授けよう。』二番目の者が来て、『御主人様、あなたの一ムナで五ムナ稼ぎました』と言った。主人は、『お前は五つの町を治めよ』と言った。
- ・20:また、ほかの者が来て言った。『御主人様、これがあなたの一ムナです。布に包んでしまっておきました。あなたは預けないものも取り立て、蒔かないものも刈り取られる厳しい方なので、恐ろしかったのです。』主人は言った。『悪い僕だ。その言葉のゆえにお前を裁こう。わたしが預けなかったものも取り立て、蒔かなかつたものも刈り取る厳しい人間だと知っていたのか。ではなぜ、わたしの金を銀行に預けなかったのか。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きでそれを受け取れたのに。』そして、そばに立っていた人々に言った。『その一ムナをこの男から取り上げて、十ムナ持っている者に与えよ。』僕たちが、『御主人様、あの人は既に十ムナ持っています』と言うと、主人は言った。『言うておくが、だれでも持っている人は、更に与えられるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられる。ところで、わたしが王になるのを望まなかったあの敵どもを、ここに引き出して、わたしの目の前で打ち殺せ。』

#### 高利貸し禁止の背景

1. 債務奴隷：当時、多くの人々の困窮につけこんで高利貸が横行し、社会的に問題化した
2. 悪徳両替商：通常通貨を神殿貨幣に代える際の高額な手数料によって信仰を邪魔した
3. 神が時の支配者：時間の経過によって利息を取ることは、神のみが支配できる時間というものに人間が値段を付ける不遜な行為であると理解された
4. 労働以外でお金を稼ぐ商売人や高利貸は卑しい職業だとみなされた